



体を動かす機会の確保

遊具の準備や片付け 時間の活用



どんな工夫?

遊具の準備や片付け



●友達と協力して運ぶ

遊具は大きさや形、重さもそれぞれで、運び方を工夫しないと持ち運ぶのが難しいものもあります。準備の中で友達と協力することでスムーズに片付けができることがあります。特に、大きな遊具は、持つ場所を分担したり、力の入れ具合などを考えたりするので、自然と、体のバランスをとる、友達とコミュニケーションをとるなどの経験ができます。



●遊具を組み合わせる経験を

子供たちが、自分たちで遊具を組み合わせて遊べるようにしましょう。友達と遊びの世界のイメージを共有しながら、遊具を活用したごっこ遊びを展開するなど、遊びが深まります。保育者は、子供たちの様子を見て、遊具の組合せが危険なときは、代わりの遊具を提案するなど、自発的な活動を安全に展開できるよう、援助しましょう。



幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

●幼児期は、多くの友達と一緒に遊ぶことができるようになります。遊ぶ時だけでなく、一緒に準備や片付けをしながら、ルールを守り、コミュニケーションを取り合う社会性が身に付きます。遊具を倉庫から出し、友達と話をしながら、その遊具の大きさや重さなどに配慮しながら運んでいきます。声をかけ合いながら、気持ちをそろえることで、子供たちの社会性が促されます。

●準備や片付けまですることで、子供たちには自立心が芽生え、遊具への愛着が増し、遊びがより楽しくなります。倉庫の所定の場所に「きちんとしました」という達成感を味わうことができ、子供の有能感が高まります。

●保育者は、運ぶ時の動線や倉庫内での遊具の片付け方などについて、安全性に配慮します。体の大きさや手先の器用さなどに応じて、運ぶものや手伝いの内容を考えましょう。大事なことは、単に準備や片付けとして行うのではなく、運動遊びへの期待をもって楽しみながら準備すること、遊びの満足感から進んで片付けができるようにすることです。

遊具の準備や片付け時間の活用のポイント

生活全般において体を動かす機会をつくる

保育中の運動時間に限らず、普段の生活中でも体を動かすことができます。準備や片付けの時間に、遊具を倉庫から出して運んだり、組み立てたりすることでも、多様な動きを経験する機会となります。子供たちが積極的に、準備や片付けができるように、遊具を出し入れしやすい環境に整えることが大切です。

安全に対する配慮をすること

保育者が遊具の安全点検や危険な場所のチェックを定期的に行い、危険がないように配慮することが重要です。子供たちと一緒に準備や片付けをする中で、子供自身が安全な積み木の積み方やマットの置き方などを自然と理解できるようにしましょう。

保育者
の声



『子供自らがやりたくなるよう仕掛けをつくる』

準備や片付けの中で多様な動きができる

- 運動遊びだけでなく、重たいものなど、友達と気持ちを合わせながら運んだり、後ろを見ながら運んだりする経験が体づくりに大切だと知りました。遊び場を自分たちでつくり、終わったら片付けるという日々の経験が、コミュニケーション力を育むことや健康な体づくりに大切だと意識しています。